

新県民体育館整備等基本計画検討会におけるこれまでの主な論点や課題等への対応について

主な論点	県の提示案	委員からの主な意見	委員の意見を踏まえた県の考え・対応策
立地・敷地	現在の県民体育館の敷地に加え、南消防署跡地とアスパルごうちのグラウンド（全面）	・旧高知南中高敷地や高知ぢばさんセンターの敷地も有力な候補	・中心市街地から徒歩20分圏内である 現有地で整備
基本方針・整備方針	・まちづくりの拠点・スポーツ振興の拠点・にぎわいの拠点・安心安全な拠点 ・ 県立武道館の集約化、プールの現有地への一体的な整備	・するスポーツとみるスポーツの両立は難しい ・社会体育施設である武道館やプールは、現有地には不要ではないか ・社会体育施設であることを明言すべき	・社会体育施設の必要性、公共施設の集約化、土地の所有者である高知市の意向などの観点を踏まえて計画 ・ スポーツをする施設（社会体育施設）に加えて、アリーナ機能を融合した複合施設 を目指すことを明記
施設の配置	メインアリーナ、サブアリーナ、武道館、プール、憩いの場、駐車場	・狭小な敷地に施設を詰め込み過ぎ ・機能不全に陥るのではないか	・技術的・専門的な見地から、 物理的に整備可能であることは確認済み ・各施設の受付を一本化して待合スペースを広くするなど、ゆとりを持たせるための工夫を行うとともに、 各施設の利用者の動線を明確に分けるなどの安全対策を講じる
メインアリーナの整備内容	・ プロスポーツの試合、大規模展示会などのMICE、音楽コンサートの開催 を想定した施設整備 ・ メインアリーナの床面は、興行やMICE利用を想定して土間コンクリート とする ・地元プロスポーツチームがない状況で、 将来的にVIPルームを増設するなどの可変を想定した整備	・社会体育施設が主軸ならば、土間コンクリートにして木製フロアパネルを敷くのは非効率でコストが重荷になる ・VIPルームやセンターハンギングビジョンの設置などを開館当初に行わない、「スモールスタート」の考え方には賛成 ・施設の稼働率をいかに上げていくかが重要	・土間コンクリートの上に木製フロアパネルを敷く 期間や回数の上限を決め、その範囲内にかかる費用は県が負担 する方針（香川県のあなぶきアリーナを参考） ・初期投資を抑えるとともに、将来的な磨き上げの余地を確保 ・プロスポーツやMICEの誘致に向けた 専門部会（プロジェクトチーム）を設置し、誘致の取組を強化
ぢばさんセンター大ホールの集約化	ぢばさんセンター大ホールで行っている大規模展示会等のMICEを開催できる機能・規模 とする	搬入・搬出口や車両の動線、駐車場などの懸念	メインアリーナに搬入・搬出口を2箇所設置し、 大型トラックが直接アリーナ内に入り出できる仕様 とする。 地下駐車場に業務用EVの設置 を検討
アスパルごうちのグラウンド全面使用	代替施設としてサブアリーナの屋上に人工芝等の運動・活動ができるスペースを確保 するなど、隣接する高知市の教育施設に通う方への教育的な配慮	・教育施設の利用者に対する配慮を継続してほしい ・県と高知市で継続的な話し合いの場を設けてほしい	・ 教育活動に支障が出ないよう 、最大限配慮した対策を講じる ・ 高知市教育委員会と継続的な協議の場 を設け、整備内容や運営方法のあり方を協議していく
地下駐車場	・地下駐車場の選択肢を含めて 250台以上を確保 ・地下駐車場の整備コストは約16億円と試算	・250台で足りるのか ・駐車場は有料化すべき ・リスクとコストの観点から地下駐車場は避けるべき ・災害時の避難において地下駐車場は心配	・ 一般来場者には公共交通機関の利用や徒歩を促し、250台の駐車場は主にイベント時の関係者が使用 ・駐車場は有料化の方向で検討 ・地下駐車場を整備する場合には、人命を守ることを第一に、 （ハード対策として）津波に耐えられる躯体構造、垂直避難できる階段を複数設置、（ソフト対策として）避難訓練を徹底
収支の見通し	年間約1.6～1.9億円の収支差額 （県の財政負担）が想定される ※収入における新県民体育館の利用料金は現在の県民体育館の1.5～2倍として試算	・利用料金は現在の県民体育館の水準の2倍以上に設定してもよいのでは ・利用料金が高くなりすぎると、スポーツ離れにつながる	プロスポーツや音楽コンサート等の 興行の利用料金は高め に設定し、 アマチュア競技の利用料金は低め に設定するなどの 利用目的に応じた料金設定を検討
利用調整	時間帯をずらすなどの工夫により、プロスポーツの試合と競技大会の同日開催は可能と見込む	プロスポーツの試合と競技大会の同日開催は、参加者や観客の安全面からも避けるべき	春野体育館など他の施設との利用調整も含めて、できるだけ 開催が重複しない運用を検討